

人との距離の取り方の難しさ

4年 A・いくん

人との距離の取り方は難しい。家族であっても自分の領域に入られ、グチグチ言われたり想定外の行動をされると嫌な気持ちがある。ましてや他人となるとやっかいだ。ゆうすけの父と母、父とゆうすけ、母とゆうすけ。ミンミンさんとゆうすけ……

それぞれの関わり合い方について、この本を読んで考えさせられた。

まず、ゆうすけの父と母の関係だ。母の転ばぬ先の杖的な細やかな気づかいを父が平気で無視し、自身の思うがままに行動してしまう所は、ぼくの家庭とかぶってしまい笑ってしまった。ぼくは、父が母に対してもう少し上手く立ち回れないかとハラハラする時がある。母は母なりに家族のことを考えているのだが、父は自分が興味の無いことは無視している。気が向いた時だけ意見を言うが、発言の責任感はない。父は父で、たまに意見をすることにはいげんを感じているようだ。ゆうすけのお父さんにも同じような事が言えるが、普段からもっと家族に関わってくれたらお互いの考えている事がわかるのにな、と思った。また、ミンミンさんのコミュニケーションの取り方にはビックリした。日本人は特有かもしれないが、空気を読む・空気が読める事に対して暗黙の了解がある。それを言うならば、ぼくも最近では空気が読めるようになったと感じる。他人の顔色を見て何が言いたいかわかることが増えたからだ。

ミンミンさんは、日本人とは全く違う距離の取り方をするが、ぼくは真っ直ぐでブレない考えを持つミンミンさんに感心した。時には自分の考えを通すことで、人との関係性が良いものに変わるかもしれないからだ。少し難しい話であったが、反復して読んでいるうちに温かい気持ちになってきた。人間関係は奥深いもので、自分なりの真っ直ぐな信念を持ってこれから生きていきたい。